

宣証 - Sensho -

私はいつも、私の前に主を置いた。主が私の右におられるので、私はゆるぐことがない。
—詩篇16篇8節—

主の御名を心から賛美いたします。世間を見るとウイルスや政治・経済等のニュースで目まぐるしいですが、その中でも季節はいつものように巡っています。それを覚えるときに私たちは確かに季節が色を持って進むように、今何を主のために進めることができるのかを考え、そして行動へ移していくことが大切であると思わされます。この秋が主の恵みの感謝と喜びを周囲の方に分け与えることができる収穫の季節となることを祈り、実行したいと奮わされます。

宣証/地域支援ネットワーク架け橋 事務局

今年3月頃から、宣証/地域支援ネットワーク架け橋（以後「架け橋」）は思い当たる最善を続けてきました。しかし、どうしても欠けていることに気づきます。それは、活動現場に立つことでしか得られない何気ない情報、つまり、目で見て肌で感じる交流です。

コロナの影響により、9年目となる今年の活動は自粛を余儀なくされ、その余波は節目となる10年目の活動にも影響を及ぼしています。「これからどうなってしまうのか」という先行きの見えない不安に押しつぶされそうな時もありました。ですが、ようやく9月頃に以前のようにではなくとも、現地に向かうことができるようになったことは大変嬉しいことでした。

2020年10月現在、南三陸町にコロナ感染者がいないことから、社会福祉協議会は、外部ボランティア活動はご遠慮いただく方針であるという話がありました。とはいえ、強く拒否することもできないので、感染対策を強化してもらうことを促している

のが現状であるということも聞きました。この話を受け、架け橋としては「社協と協働する」という観点から、万全に注意を払いつつ活動を続けています。



1. 宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会

来年節目となる10年目を迎える追悼記念会は、コロナ禍を鑑み、オンラインで配信することになりました。既にアーティストによる歌とメッセージは収録され、今年末までには被災された方々、現場で活動している方々のインタビューを撮り終える予定です。収録された映像は、YouTubeやFacebookにて配信します。それと、3月11日はMCの久米小百合さんと追悼会スタッフが、南三陸町志津川と気仙沼市より今の被災地の状況を生配信する予定です。



2. 仙台市青葉区にある復興集合団地

私が住む場所の近くにある復興集合団地から、架け橋は色々と相談される関係となっていました。それが今年初めより、電話では話すも地域の方との交流はまったくない事態となっています。もし共同スペースとなる集会所を利用すると自治会は責めを負うことになるからです。そうするとどうしても遠慮気味となってしまいます。

9月頃、自宅から車で走り出すとすぐそこに、復興集合同地の初代会長の奥様と、二代目の会長夫人のお二人が楽しそうにおしゃべりをしながら背を向けて歩いていました。

早々に車を止め、お声をかけると、「あら～、今買い物に行く前に、中澤さんのところに行ってみようよと言って歩いてここまで来たんだけど、結局場所が分からなくて断念して帰ろうとしていたのよ」と大声で元気よく笑いながらおっしゃいました。私は何かあったのだろうかと思い、問いかけると「中澤先生どうしているのかなあ～と思って」という返答でした。逆に安否を問われ、嬉しく有り難い場面となりました。今もコロナの影響により、集会所の利用はできない雰囲気でした。一日も早く人目を気にしない状況になることを願います。

3. 大切ないのち

今まで寄り添い、共に励まし合って生きてきました。それは今後も変わりなく、そうありつづけるつもりです。しかし、いのちと向き合う中で、どうしても難しいと思うことがあります。それは、どうしても大切だと思う気持ちが相手に伝わらず、そうこうしているうちに相手がいなくなるという事態が発生してしまうこと、つまり、「いのちの限り」を予測できないことです。

そもそも、私の活動は身体の「いのち」と向き合うものでした。さらにその先は霊性の「こころ」と向き合うことです。安否を問う活動はその2点に絞られます。その上で必要なことを、三つの次元（時間・地域・人）に繋ぐ働きを、悪戦苦闘しながらも続けてきました。けれども、今回は「自死」という悲しい出来事に向き合います。

この記事は特定されることがないように、ぼやけた文章とします。なぜなら人は、その家族を責め、その子を心を勝手に読み取り、噂を広めてしまうからです。今、その家族は必死に耐え、気持ちの整理をしています。私が語る祈りのことばは、どうしても浅いものですが、家族は祈りの一言を捉え、肉体と魂の奇蹟を信じて、今も病院で過ごしております。



自死はダメです。その通りです。反対に「死んで来世で」と考える人もいます。それも曖昧で短絡的です。どちらにせよ、命を粗末にする行為に対して諭す（教える）ことが必要です。

しかしその前に、追い詰められた心情に伴走し、寄り添うことが大切です。また、命を絶ってしまった方の残された家族のことを覚え、共に伴走することも同様です。

たましいに関しては、既に人の領域ではなく、神聖であわれみ深い神さまの領域です。そこに委ねつつ、私たちは神さまの愛をもって助け合おうと思っています。

4. 実践宣証会議の再開

登米市在住の女性の方より電話がありました。この方はクリスチャンで、震災後に受洗された方です。洗礼を受けた牧師先生は、宣証会議にも参加されています。話の内容は、仕事のこと、日曜礼拝のこと、信仰生活のことでした。

以前に2、3度相談を受けたましたが、その際に通っている教会の牧師先生にお話をするようにアドバイスしました。それが「牧会道德」と学んだからです。

ですが、今回は事情が違いました。「道德」で治めてしまうと、この方の魂と家族が深い傷を負うことになると判断したからです。まず、仕事のことについて生命保険会社で長く勤めてこられましたが、その仕事が正しい仕事ではないので辞職しなさいと言われたこと。日曜日の礼拝出席は絶対であって、欠席する際にいかなる理由も認めてもらえないこと。牧師の言うことがすべてで、聞き従うことが信仰生活であると言われたこと。詳細は省きますが、これらのことで、牧師との決裂が言い渡され、この思いを誰に聞いてもらったらいいか分からず、苦悩の末、私に電話をかけてこられました。

(文責：中澤 竜生)

－ 会計報告 －

前回繰越金：171,515円

献金収入：308,178円（2020年7月16日－10月22日）

ご献金を捧げてくださった団体様および個人様（敬称省略 順不同）

金原雅子、日本イエス・キリスト教団京都聖徒教会、清瀬グレースチャペル、佐藤由紀夫、東北ヘルプ、大場孝子、キリスト聖協団練馬教会、キリスト聖協団上田教会、キリスト聖協団青梅教会、キリスト聖協団信徒会、キリスト聖協団中川教会、キリスト聖協団西入間教会、間々田秀子、佐藤多津子、キリスト聖協団八王子教会、船堀グレースチャペル、萱島キリスト教会、魚住キリスト教会、キリスト聖協団仙台宣教センター

献金支出：453,000円（2020年7月16日－10月22日）

車両交通費：89,000円、事務費・通信費・DM・イベント費：55,000円、啓蒙活動費：30,000円、

追悼会活動費：12,000円、慶弔費：0円、行事費（地域交流、こども支援）：67,000円、困りごと支援費：50,000円、雑費：0円、

スタッフ費：150,000円（4名分）

次回繰越金：26,693円

－ 事務局からの祈りの課題 －

ここまで宣証／地域支援ネットワーク架け橋のニュースレターをお読みくださりありがとうございます。現状コロナ前のように現地に出向いて顔を合わせた働きが全くできない中ですが、竜生氏は電話やメールなどの非接触方法を用いながら安否を問うことを続けています。

ですが中にはリモートでのやりとりを取れない方もいるので、今彼は、彼女はどのようにしているのかと気になる方が思い浮かばされます。これからもメール、電話を始め手紙やビデオ通話等も利用しながら宣証活動を続けます。

詳細はまだお伝えできないのですが、今コロナ影響もあり、人の関わりが途絶え、辛い悲しみを覚える人がいます。その人達の心の安らぎのためにお祈りをお願いします。

そして地域支援ネット架け橋ですが、宣証活動のための経済が底をついている状況です。人の喜びや悲しみのところで寄り添い証を伝えていくために必要な分が与えられますように、どうか竜生氏の宣証を覚えてお祈りの支援をよろしくお願いします。

最後に皆様が宣証を広めてくださっていることにも感謝いたします。どうかこれを読んでくださっている皆様の家庭が一層祝福されますようにおひとりおひとりを覚えてお祈りしております。

地域支援ネット架け橋 事務局より

■地域支援ネット架け橋の活動内容はこちらのHPから→ <https://www.kakehashi2013.com>

■お問い合わせはこちらのメールアドレスへ→ kakehashi.net@gmail.com

【事務局】地域支援ネット架け橋

【所在】宮城県仙台市青葉区愛子東3-14-22

【電話】090-1069-3925

【発行元】宮城県仙台市青葉区愛子東1-10-30-105

【活動スタッフ】中澤竜生、中澤佳子

【事務スタッフ】中澤義道、中澤愛美



宣証“地域支援ネット架け橋”

ホームページQRコード